

では、この核家族化、高齢化した世帯に何か問題は有るか、無いか？、平穩無事に日々が過ぎていき、特段、問題が無いように見える。勝手に懸念するのは、従来は家庭内で収まっていた、解決できていた事が出来なくなってきた、解決できないか、ということである。買物、通院といった日常生活はもとより、今冬のような大雪への対処、ひいては、いつ起こるか分からない災害発生時の身の処し方まで考えれば、今は何とか踏ん張っていても先々への不安を抱く世帯は少なくないのではないか。



となり近所との交流

解決策はあるのだろうか？。公共機関の様々な支援サービスを有効に活用するのは勿論だが、身近なところで、人との繋がりによって解決できることがあるのではないかと。隣近所同士の繋がり、地域コミュニティとの繋がり、家族だけでは解決できない事の多くをカバーできるのではないか。孤立することなく、人との繋がり大切さを改めて認識する必要があるのではないだろうか。

活動紹介

▼21年目のスタート

桜台学童クラブ運営協議会 会長 安藤 歳勝
桜台学童クラブは、平成12年2月に

花北学童クラブと松園学童クラブが合併し設立されてから、今年で21年目のスタートを切りました。

学童クラブは、保護者が就労等で昼間家にいない児童に対し、放課後及び長期休業等家庭に変わる生活や遊びの場を提供し、児童の健全な育成を図る目的で設立されました。

運営は、運営協議会が最終決定機関ですが、予算案の策定や管理、お楽しみ会や夕涼み会等の行事、問題発生時の取り組み、避難訓練の安全対策等は、保護者会が主体となり計画しております。役員会が毎月開催され、具体的に話し合い実施されております。

運営に掛かる費用(補食費、設備関係費、人件費、保険料、教材費、行事費等)は、保護者からの運営負担金、国・県・市・花巻市福祉協議会からの助成金等で賄われております。

学童クラブは、異年齢集団の活動が中心になります。学習習慣を身に着けようとする自主学習、躰、物事の善悪、人との関わり方、優しさや思いやり等を共同生活や諸行事、遊びなどの幅広



い活動を通し、少しでも身に着けられる一助になればと、指導員は日々奮闘しております。

児童は、自立した社会人になるために様々な学習中です。自分で決められず迷ったり、悩んだり、間違ったりします。そういう時こそ少し時間を取り、頭で考え、心で感じる対応に努めたいものです。そのためにも、学校や保護者の皆様と学童が連携・協力を図り、児童が成長するため情報を共有したいものです。

運営協議会も、指導員、保護者会と共に児童の成長に協力したいと思っております。

▼「日本の文化を

日々の生活の中に活かして」

花巻市伝統文化子ども教室 主宰 太田代智恵子

子供たちがゆかたを着ることを通して、日本の文化に興味と関心をもって欲しいと願い、平成25年春に新築された花北振興センター和室で子ども教室を開きました。桜台小学校の1年生から6年生が十数人集まりましたが、ゆかたは「中裁ち」に「本裁ち」と体型

や身長により着る方法が違いますので、数人のスタッフの手も借りながら始めました。教室では正座をして「よろしくお願いします。」の挨拶から始まります。裾合わせ、衿の合わせに気をつけて紐をしつかりと結びます。次は帯を結んでいきます。何度も何度も練習をして上手にできると皆、いい笑顔で嬉しそう。ゆかたにも慣れてきたなら

お辞儀の種類と仕方、物の受け渡し、お箸の使い方、風呂敷の扱い方等、毎日の生活の内約に立つこと、皆が気持ちよく過ごした目に大切な「思いやりの心」や「友達と和する心」。年中行事のお話しでは「感謝の心」「尊敬の心」と回を重ねる内で豊かな心や感性を育んでいけたらと思います。

11月の成果発表会にはお家の方達におもてなしの心でお茶をさし上げて、写真撮影をし、ゆかたと帯を丁寧にたんで終了します。

今までは日々の文化は祖母から母へ、母から娘へと伝えられてきたものです。時代と多様な生活の変化により子供達へ伝えられなくなっているようにも思われます。ゆかたを自分で着ることによって個性や能力の発見につながるかもしれません。



おもてなしの心でお茶を

令和3年度は7月1日より木曜日、午後3時半から5時まで無料で開催しています。ゆかたは貸し出しもしますので、体験を楽しんでみませんか。

◆編集後記

皆様からのご協力で「会報こぶし第30号」の発行ができました。深く感謝いたします。

編集担当 戸來